

## 煉瓦造りのアーチ橋

### 海軍炭鉱・国鉄炭鉱の遺跡群 (6)

今回は町外に足を伸ばしてみます。粕屋町長者原駅、香椎線ホームの足許にすばらしい煉瓦造りのアーチ橋があるのをご存じでしょうか。写真「長者原1」は駅の西側、粕屋フォラムから南に踏切を越えたところで撮影したものです。反対側にも同じ風景があります。上を香椎線が通っていて、ホームの屋根が少し見えます。

香椎線が開通したのは明治三十七年（一九〇四）一月、日露戦争開戦の直前でした。新原海軍炭鉱の石炭を運搬するために、初め西戸崎・須恵間が開通し、次いで新原、宇美へと延長されていきました。開業当初は博多湾鉄道の経営で、香椎線の歴史はすでに百年以上を経ています。

比較のために筑紫野市永岡にある「旧九州鉄道城山三連橋梁」も紹介しておきましょう。「城山1」は東側から、三つのアーチがつながる美しいデザインをながめています。橋の上は九州鉄道（現在のJR鹿児島本線）でしたが、今は鳥栖筑紫野道路（旧有料道路）に

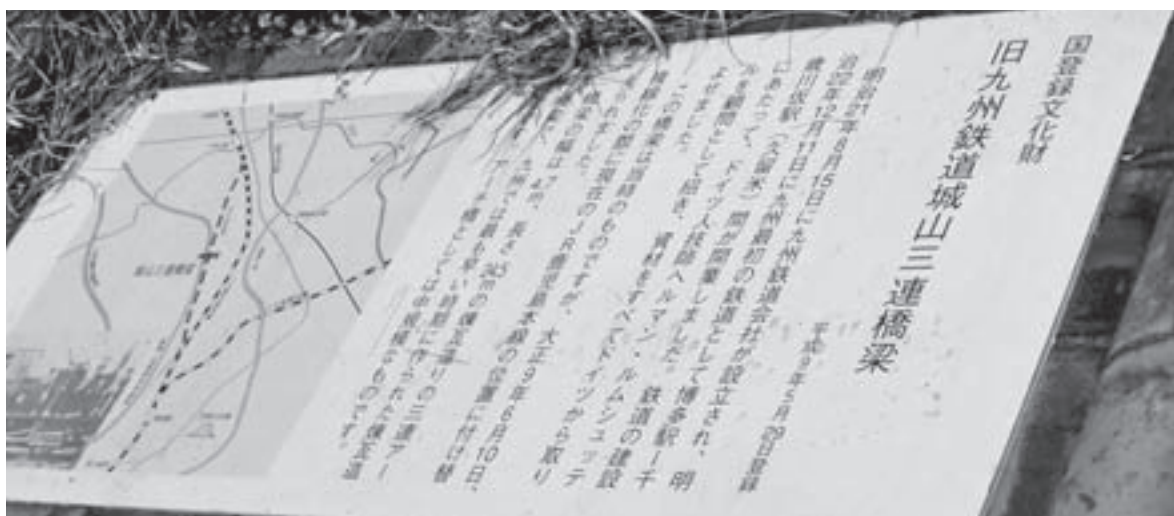
沿った市道として利用されています。明治二十二年（一八八九）に開通、平成九年五月、国登録有形文化財に指定されました（城山2）。建設を指導したのはドイツ人技師ヘルマン・ルムシュツテルですが、煉瓦の積み方はイギリス式ということでした。アーチの内側には①一段ごとに長辺・短辺を並べる方式（城山3）、②長辺のみを並べる方式、③長辺の間に短辺を紛れ込ませる方式などが観察できました。

「長者原2」はアーチの脚部で、煉瓦の間には石材が三段積まれています。煉瓦の積み方は下の方が長辺・短辺（小口に当たる部分）を交互に重ねていく①の方式、石材の三段目から上は長辺のみが見える②の方式となっています（これは次

に述べることと関係します）。イギリス式ということになりました。「長者原3」は東側からアーチの上部を見たものです。城山三連橋梁では、短辺（小口）を四段重ねてアーチの曲線を描いていることがわかりますが、粕屋町の方では写真に見る通り五段になっています。さらに上の方にもデザイン的な工夫が凝らされています。円頂部にはめられた石は東側・西側ともにあり、鉄道会社か橋梁かの名前を記したプレートがかかっていたのではないのでしょうか。今は想像するしかありません。



長者原1：香椎線のアーチ橋（粕屋町）



←城山2：登録有形文化財の説明（筑紫野市）



←長者原2：長者原アーチ橋の煉瓦積み（粕屋町）



長者原3：長者原アーチ橋の円頂部（粕屋町）



城山3：橋梁内部の煉瓦積み（筑紫野市）



城山1：三連橋梁（筑紫野市）